

KRG INVESTOR RELATIONS



令和8年度（第13期）

# 第1四半期 決算報告

MQ会計（STRAC）で見る 第1四半期の損益構造

ケーアールジー株式会社 KRG inc.

2026年6月

代表取締役 やすひさてっぺい

## KRG INVESTOR RELATIONS

# [KRG-IR] 令和8年度（第13期）第1四半期 決算報告

## — MQ会計（STRAC）で見る 第1四半期の損益構造 —

前期（R7・第12期）通期は経常損失△22,957千円・当期純損失△24,337千円、f/m比率166%。

R8第1四半期は売上33,865千円・経常利益7,058千円、f/m比率71.1%、純資産20,550千円・自己資本比率44.4%。

本資料は損益を西順一郎先生のMQ会計（STRAC）の構造で開示するものです。

売上 <b>PQ</b> ¥33,865 約 3,386 万円	粗利 <b>MQ</b> ¥24,463 MQ率 72.2%	経常利益 <b>G</b> ¥7,058 当期黒字（前期通期 △2,434万）
固定費 <b>F</b> ¥17,405 F1～F5（営業外含む）	f/m比率 71.1% 前期 166%（D）から改善	純資産 ¥20,550 自己資本比率 44.4%

**第1四半期のポイント：**前期（R7通期）はf/m比率166%（粗利<固定費）の赤字構造でしたが、当四半期はf/m比率71.1%。粗利(MQ)が固定費(F)を上回り、**経常利益+706万円の黒字**。純資産は1,348万円→2,055万円、自己資本比率は29.6%→44.4%へ。

## ◆ 損益計算書（要約） P/L

単位：千円 / 第1四半期（春・2～4月）単体

科目	金額	対売上(PQ)比
<b>PQ</b> 売上高	33,865	100.0%
<b>VQ</b> 売上原価（変動費）	9,402	27.8%
<b>MQ</b> 売上総利益	24,463	72.2%
<b>F</b> 販売費及び一般管理費	17,357	51.3%
営業利益	7,107	21.0%
営業外損益（F3）	△48	△0.1%
<b>G</b> 経常利益（=当期純利益）	7,058	20.8%

※ 本表は第1四半期（春・2～4月）単体。IT事業の年間契約（ランニング）等が期初に計上されるため、通期に対して第1四半期の売上構成比が大きくなる傾向があります。第2四半期以降は次回の報告で開示します。

## ◆ 貸借対照表（要約） B/S

直近時点の財政状態。単位：千円。

### 資産の部

現金及び預金	16,665
売上債権（売掛金）	11,029
その他流動資産	3,092
<b>流動資産 合計</b>	<b>30,786</b>
無形固定資産（ソフトウェア）	14,221
投資その他の資産	2,406
有形固定資産（償却後）	<b>△1,174</b>
<b>固定資産 合計</b>	<b>15,453</b>
<b>資産 合計</b>	<b>46,238</b>

### 負債・純資産の部

流動負債	9,756
長期借入金	5,625
役員借入金	10,307
<b>負債 合計</b>	<b>25,688</b>
資本金	38,300
資本剰余金	33,000
利益剰余金	<b>△50,750</b>
<b>純資産 合計</b>	<b>20,550</b>
<b>負債・純資産 合計</b>	<b>46,238</b>

※ 有形固定資産（償却後）が△1,174千円とマイナスになっているのは、利用している会計システム（FMクラウド会計）の仕様により、無形固定資産（ソフトウェア）の減価償却を無形側で処理できず、有形固定資産側で償却計上しているためです。実際に有形資産が不足していることを示すものではありません。

**B/Sの健全性**：繰越損失（△50.7百万円）を抱えつつ、資本金・資本剰余金（計71.3百万円）により**純資産プラス2,055万円・自己資本比率44.4%**。前期1,348万円から回復し、R8計画「自己資本2,800万円回復」へ前進。

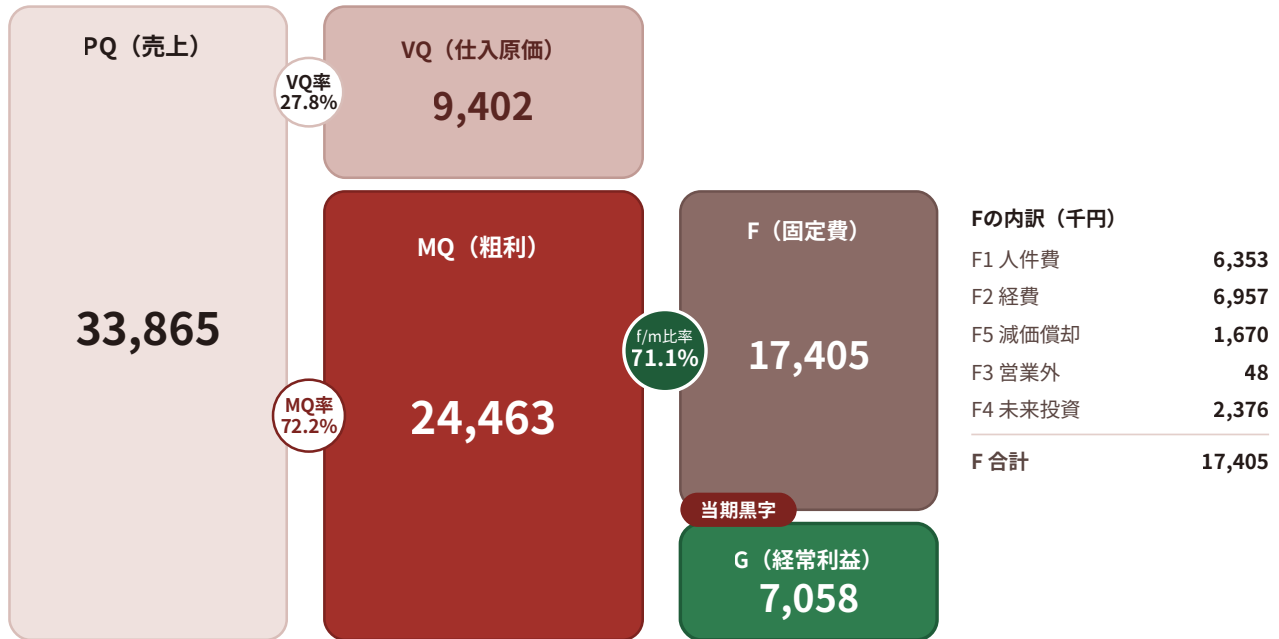
## STRAC図（MQ会計表 P/L） STRAC / MQ ACCOUNTING

▶ この図でわかること：売上(PQ)が変動費(VQ)と粗利(MQ)にどう分かれ、その粗利が固定費(F)と利益(G)へどう配分されたか。当四半期の損益構造が一目で分かります。

縦の高さ全体がPQ（売上）。PQを縦にVQ+MQに分け、MQをさらにF+Gに分けます。狙いは右下のG（経常利益）です。

### KRG inc. MQ会計表 P/L 令和8年度 第1四半期（R8 Q1）

単位：千円



$$PQ 33,865 = VQ 9,402 + MQ 24,463 \quad MQ 24,463 = F 17,405 + G 7,058$$

※ 単位：千円。Fは営業外（F3）を含むため、G＝経常利益（＝当期純利益）です（特別損益なし・法人税等は繰越欠損金により未計上）。f/m比率＝F÷MQ。

## ◆ 固定費（F）の内訳 FIXED COST

▶ この表でわかること：黒字・赤字を左右する固定費(F)が、人件費・経費・減価償却・営業外・未来投資のどこにくらかかっているか。

単位：千円

区分	金額	F比	内容
F1 人件費	6,353	36.5%	役員報酬・賃金・パートナー費
F2 経費	6,957	40.0%	家賃・通信・手数料・旅費・貸倒等
F5 減価償却費	1,670	9.6%	ソフトウェア・車両等
F3 営業外	48	0.3%	支払利息-受取利息・雑収入
F4 未来投資（戦略費）	2,376	13.7%	研究開発・広告・研修等
<b>F 合計</b>	<b>17,405</b>	<b>100.0%</b>	<b>f/m比率 71.1%</b>

## ◆ 経営指標 KEY METRICS

▶ この指標でわかること：自己資本の厚み（安全性）と、利益を生み出す効率（収益性）。f/m比率は100%を下回るほど黒字体質です。

自己資本比率

**44.4%**

純資産 ÷ 総資産

f/m比率

**71.1%**

F ÷ MQ（100%未満=黒字）

安全余裕率

**28.9%**

この幅まで売上減でも黒字

ROE

**34.3%**

純利益 ÷ 自己資本  
※当四半期累計

ROA

**15.3%**

純利益 ÷ 総資産  
※当四半期累計

EBITDA

**¥8,777**

営業利益 + 減価償却費

## 事業別セグメント損益 BY BUSINESS LINE

▶ この表でわかること：売上をどの事業が牽引し、どの事業が高い粗利率（＝稼ぐ質）を持っているか。

R8計画の3事業フレーム（タレ・協会／マネジメント・IT）でMQを分解。MQ率が事業の“質”を示します。

単位：千円 / MQ率 = MQ ÷ PQ

事業セグメント	売上 PQ	構成比	変動費 VQ	粗利 MQ	MQ率
IT事業（サーバー／開発／外販）	26,805	79.2%	8,271	18,534	69.1%
協会（マネジメント）事業	6,087	18.0%	485	5,601	92.0%
タレ事業	858	2.5%	427	432	50.3%
その他	115	0.3%	4	111	96.8%
未配賦変動費	—	—	215	△215	—
合計	33,865	100.0%	9,402	24,463	72.2%

**読みどころ：**売上はIT事業（79.1%）が牽引する一方、協会（マネジメント）事業は**MQ率92.0%**と極めて高収益。R8計画の「fans3を協会運営OSとして提供」「1.2億PQの自動回収」と整合しています。

## ◆ 前期（R7）との比較 R7 vs R8-Q1

▶ この表でわかること：売上規模ではなく“収益構造の質”が前期からどう変化したか（粗利率・f/m比率・最終損益・自己資本）。

時点・期間が異なるため売上額の単純比較はできませんが、収益構造の“質”を示す比率は比較できます。

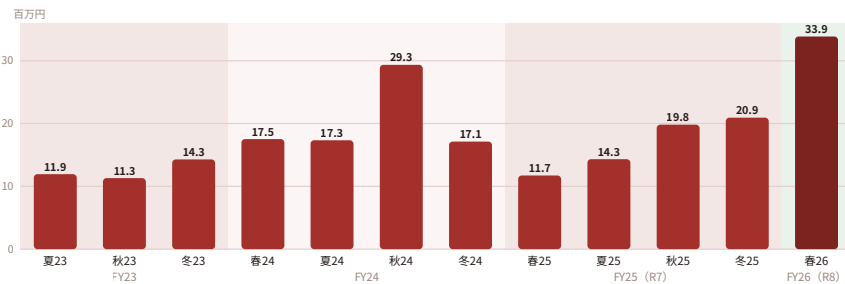
指標	R7（第12期）	R8 第1四半期	評価
MQ率（粗利率）	51.7%	72.2%	改善
f/m比率（F÷MQ）	166% (D)	71.1%	黒字水準
G（最終損益）	△24,337	+7,058	黒字化
自己資本（純資産）	13,485	20,550	回復

※ f/m比率は100%を超えると粗利で固定費を賄えない赤字構造。R8-Q1は71.1%=MQがFを上回る黒字構造に転換しています。

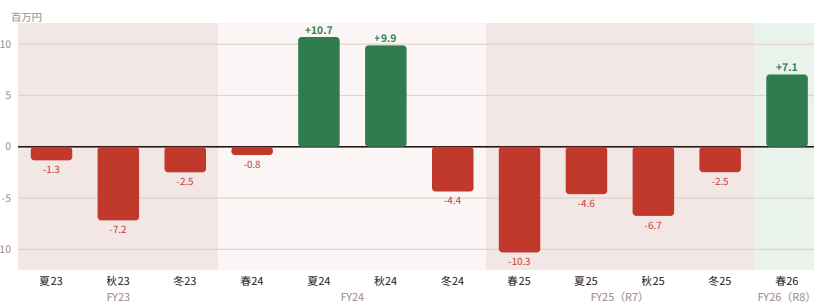
## 業績推移（新四半期・過去3年） QUARTERLY TREND

▶このグラフでわかること：単発の数字ではなく、売上・利益・自己資本が過去3年でどう動いてきたかの流れ。

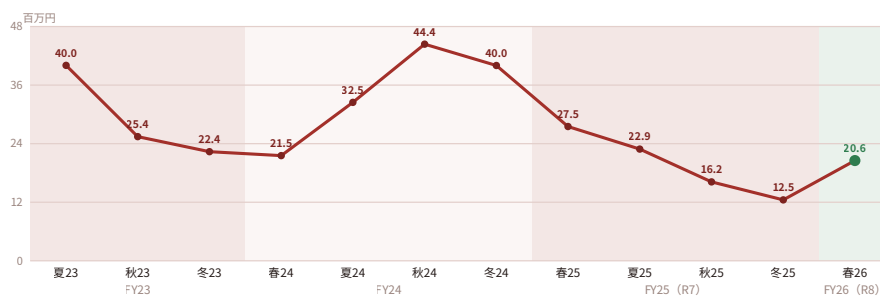
決算期変更（旧5月決算→1月決算・R6期）に伴い四半期の区切りが変わったため、過去と現在を同じ土俵で比較できるように新四半期（春2～4月／夏5～7月／秋8～10月／冬11～1月）へ再集計しています。単位：百万円。



売上高（PQ）。R8第1四半期（26春）は前期からの売上計上ずれ（前受金の当期計上）を多く含むため一時的に33.9百万円と突出。実力ベースの水準とは異なります。



経常利益。FY24の黒字（24夏＝補助金約10百万円、24秋＝大型IT受注）を除き赤字が続き、R7（FY25）は全四半期赤字。R8第1四半期に+7.1百万円で黒字転換。



純資産（自己資本）。39～44百万円の水準から、R7（FY25）にかけて12.5百万円まで低下。R8第1四半期に20.6百万円へ回復。

## ◆ 通期業績推移（年度） ANNUAL

単位：千円

期	期間	売上高	経常利益	当期純利益	純資産(期末)	自己資本比率
第9期	22/6-23/5	52,349	15,244	15,064	41,339	94.0%
第10期	23/6-24/5	54,926	△583	△9,552	31,787	63.0%
第11期	24/6-25/1(8ヶ月)	60,667	4,120	6,036	37,822	85.5%
第12期(R7)	25/2-26/1	66,806	△22,957	△24,337	13,485	29.6%
第13期(R8) 第1四半期実績	26/2-26/4	33,865	7,058	7,058	20,550	44.4%
第13期(R8) 通期計画	26/2-27/1	120,000	—	11,870	28,000	—

※ 第9・10期は旧5月決算（各12ヶ月）、第11期は決算期変更により8ヶ月、第12期以降は1月決算（12ヶ月）。期間が異なるため通期額の単純比較には注意が必要で、上の四半期推移が実質的な比較になります。経常利益の各期末「決算整理」は通期に含みます。

## ◆ R8事業計画への進捗 VS R8 PLAN

通期計画（売上1.2億円・利益1,100万円・自己資本2,800万円回復）に対する第1四半期時点の到達度。

売上 進捗

**28%**

3,387万 / 計画 1.2億

利益 進捗

**64%**

707万 / 計画 1,100万

自己資本 回復

**73%**

2,055万 / 目標 2,800万

※ IT年間契約の期初認識により売上・利益はQ1に偏重します。下期の協会（マネジメント）事業のPQ自動回収が通期達成の鍵です。

## ◆ 代表取締役メッセージ MESSAGE FROM THE CEO

第1四半期は経常利益706万円と黒字になりました。ただし、この黒字の多くは前期からの売上計上のずれ（前受金の当期計上）によるもので、当四半期単体の実力が大きく改善したわけではありません。そこは率直にお伝えします。

当社はいま、人材の登用を進め、あえて固定費（F）を厚くかける方向へ舵を切りました。今期はその準備と投資の段階であり、その成否は第2・第3四半期で見えてきます。

最優先は**教育事業の展開**です。協会運営のノウハウを体系化した「協会大スクール」を、いよいよ事業として立ち上げます。6月から受講者の募集を開始し、テスト運用に入ります。協会経営120項目をパッケージとして提供し、これを次の収益の柱に育てます。

課題も率直に共有しながら、再生を着実に前へ進めてまいります。

代表取締役 やすひさてっぺい

- 金額は千円単位（千円未満を四捨五入）で表示しています（例：¥66,805,683 → ¥66,806）。STRAC図・推移グラフを含め単位を統一。比率は四捨五入のため、内訳と合計が一致しない場合があります。
- 本資料は西順一郎先生のMQ会計（STRAC）に基づき、当社の管理会計区分（PQ・VQ・F1～F5）で作成。F1=人件費、F2=経費、F3=金利(営業外)、F4=戦略費(未来投資)、F5=減価償却費。
- $f/m$ 比率 =  $F \div MQ$ 。安全余裕率 =  $1 - (\text{損益分岐点売上} \div \text{売上})$ 。ROE・ROAは当四半期累計の純利益による期間値（年換算前）。
- R7数値は第12期定時株主総会報告に基づく概算。第3・第4四半期は未到来で、確定値は通期決算にて改めて開示します。

ケーアールジー株式会社（KRG inc.）  
代表取締役 やすひさてっぺい